

⑫ 山間部電気通信施設点検における安全対策について

日本海電業株式会社 神通川水系砂防事務所電気通信施設点検業務
(履行期間：平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

こんどう たけひこ

管理技術者 近藤 武彦

キーワード「山間作業」「害虫害獣」

1. はじめに

神通川水系砂防事務所管内に設置されている電気通信設備は山間部にも点在しており現地までは徒歩によって点検業務にあたることが多くなっています。その際の山間部における危険性について考えられるものとして、蜂(スズメバチ等)、毒蛇(マムシ・ヤマカガシ等)、熊による被害が想定されます。

2. 業務概要

本業務は、神通川水系砂防事務所管内に設置されている電気通信施設の点検業務を行うもので各設備の運用状況の把握と機能確保を目的とします。

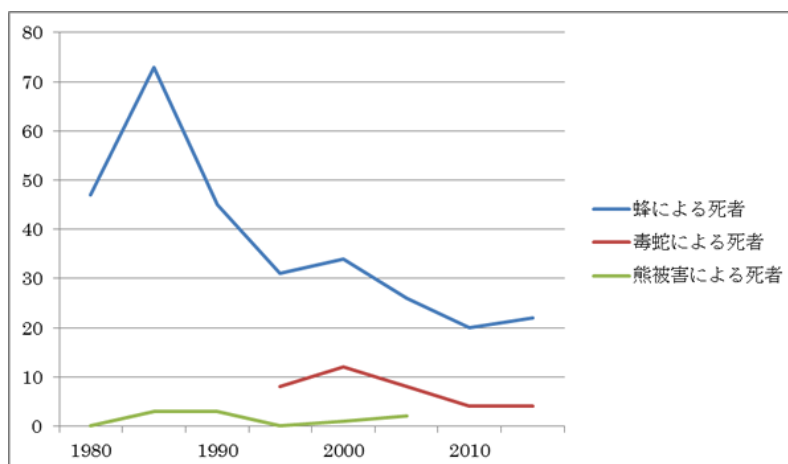
また、障害が発生した場合は、迅速に対応し、障害の早期復旧に努めるものとします。

危険生物の活動期間と被害件数について、下記表にまとめました。

種類		活動期間	年間被害件数 / 年間死亡人数
蜂	スズメバチ	5月～11月	1000件以上 / 30～40人
	アシナガバチ	5月～11月	
毒蛇	マムシ	4月～10月	3000件 / 10人
	ヤマカガシ	4月～11月	
熊	ツキノワグマ	4月～11月	100件 / 1～2人

また、本業務のほとんどが危険生物との活動時期と重なり、山間部へ業務に入り被害に遭う可能性も高くなると想定されます。

下の表の通り、意外にも熊や毒蛇に比べ蜂による死者の数が多いことが読み取れます。



山間部においての危険生物との遭遇しない予防対策と、“もしも”の時に備える対処法について次に安全対策をまとめました。

3. 被害に遭わない、遭遇しないための予防対策

3.1 蜂 スズメバチ等

- ・ 黒色を攻撃する性質があるので白っぽい服装を着用する。
- ・ 巣を見つけたら近寄らず巣の近くでは大声を出したり、振動を与えたりしない。
- ・ 香水等の匂いを発するものまた整髪料等を身に着けないようにする。



3.2 毒蛇 マムシ・ヤマカガシ等

- ・ 山には蛇がいるものと思って足元をよく見て行動する。
不幸にしてであった場合は彼らのほうから襲ってくることはなく尻尾を踏んだり刺激を与えた時に攻撃してくるので無視して立ち去る。
- ・ 石垣を住处としている場合も多いのでむやみに石垣などに近寄らない。
- ・ 服装は肌の露出部を少なくし、できるだけ長靴ゴム手袋を着用する。

3.3 熊 ツキノワグマ

- ・ 熊鈴、ラジオを携帯し人間の存在を知らせる。
- ・ 熊避けスプレーを携帯しておく。
- ・ 単独行動をせずに複数人で行動する。
- ・ 山へ入ったときは、残飯やごみは必ず持ち帰る（クマに味を覚えさせないため）。

熊よけスプレー



玩具(火薬)ピストル



4.“もしも”の時の対処法

4.1 蜂 スズメバチ等に刺されたら

- ・刺された箇所をポイズンリムーバーで毒を吸い出す。
- ・低い姿勢をとり、さらに刺されないように巣からなるべく離れ安全を確保する。
- ・じんましん・呼吸困難・血圧低下・意識障害等の前身アレルギー症状(アナフィラキシーショック)が出た場合はすぐに医療機関に連絡する。もし自分一人で連絡ができない場合は、助けを呼ぶ。

救急車等が到着するまで、ショック体位(足側を15cm~30cmほど高くする姿勢)で安静にする。

4.2 毒蛇 マムシ・ヤマカガシ等に咬まれたら

- ・ポイズンリムーバーで吸い出す。それが無ければ、口で毒を吸い出す(口で吸っても胃液で分解されるので心配ない)。水があれば毒を絞り出して洗浄する。
 - ・マムシの場合、2つのかみ傷を切開して毒を吸い出すのが有効とされていますが、口内に傷があるとそこから毒が入る可能性もあります。かまれた場所から約10センチほど心臓部に近いところをヒモなどで指1本入るくらいの緩みをもたせてしぼり、病院へ行く。
 - ・安静にして、救護者に担いで搬送してもらおう。無用な動きは毒の周りを早めるため落ち着いて行動する。受傷後は必ず診療を受け血清を打ってもらおう。
- 死亡した例は病院へ行かなかった人に多いそうなので必ず病院で診療を受ける。

4.3 熊 ツキノワグマに遭遇したら

遠くに熊がいることに気が付いたとき

- ・慌てず落ち着いてその場から離れる。
- ・クマに気づかれてしまう可能性があるので大声を出して走って逃げることはなるべく避ける。

近くで熊と出会ったとき

・落ち着いてゆっくりとその場から離れる。その際はクマに背を向けずに、クマを見ながら、ゆっくり落ち着いて後退する。あわてた人の急な動作で驚いて、攻撃してくることがあるので、冷静に、あわてず、クマが立ち去ってからその場を離れる。

突発的に襲われそうなときは素早く熊避けスプレーを使用する。それでも襲ってくるようであれば両腕で顔や頭をガードして、大ケガを避ける。



5. まとめ

初めのグラフにもあるとおり、蜂、蛇、熊の順に被害して発生おり年間被害件数では蜂の被害が多くなっています。山間部では危険生物がすぐ身近にいることを前提に安全や対策を考え、いかに被害に遭わないようにするかを日々の作業前KY活動にて全員が意識を持つことが大切であると考えられます。被害に遭わないための対策ももちろんのこと、普段より病院へ行きにくい場所で被害に遭ったらどう対処するのか心構えが必要と考えます。また、一刻も早く最寄りの診療所または病院で診療してもらうためにも、病院、診療所までの搬送ルートを事前に確認しておく事も大切であると考えます。山間部に入るといふ事でどんな危険があるのか考え心構えをし、今後の安全な作業を実施していきたいと考えます。

参考文献

蜂の研究所(蜂の生態を科学する。) <http://t-meister.jp/hachi/lab/higaijyoukyou/>
毒蛇2種 | 達人に訊け! | 中日新聞プラス <http://chuplus.jp/blog/article/>
岐阜県公式ホームページ <http://www.pref.gifu.lg.jp/>